

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年8月6日（水）

2 確認箇所

- ・ 5・6号機建屋滞留水移送経路（図1）
- ・ F2タンクエリア（図1）
- ・ 3号機起動変圧器解体現場（5号機南側ヤード）（図1）

3 確認項目

- （1） 5・6号機建屋滞留水移送経路の状況
- （2） 3号機起動変圧器解体作業の状況

4 確認結果の概要

（1） 5・6号機建屋滞留水移送経路の状況

東日本大震災以降、サブドレン設備の停止等により5・6号機建屋地下階に地下水が流入している。当設備の復旧工事が完了し、令和4年3月28日から、建屋周囲の地下水汲み上げが開始されているが、5・6号機建屋地下階への地下水の流入は継続している。

5・6号機建屋地下階に溜まっている地下水（以下「5・6号滞留水」という。）は、F1タンクエリアに移送され、浄化处理された後、構内に散水されている。（浄化处理設備の前回確認：[令和7年6月10日](#)）

今回は、6号機タービン建屋からF1タンクエリアまでの5・6号滞留水移送経路の状況を確認した。

- ・ 5・6号滞留水を移送するための配管は、プラスチック製のボックス内に納められており、配管の状態を直接確認することはできなかったが、周囲に水たまりは見られず、漏えい等の異常は確認されなかった。（写真1）
- ・ 5・6号滞留水移送の中継タンクとして過去に使用されていたフランジ型タンク※1がF2タンクエリア内に残置されていた。現在の5・6号滞留水移送ルートはこれらのタンクを迂回していることから、使用されていないタンクについては、識別のためにタンク表面に『運用停止中・内包水無』との表示がなされていた。東京電力によれば、これらの使用していないタンクは、令和8年度以降に解体・撤去を行う予定である。（写真2）

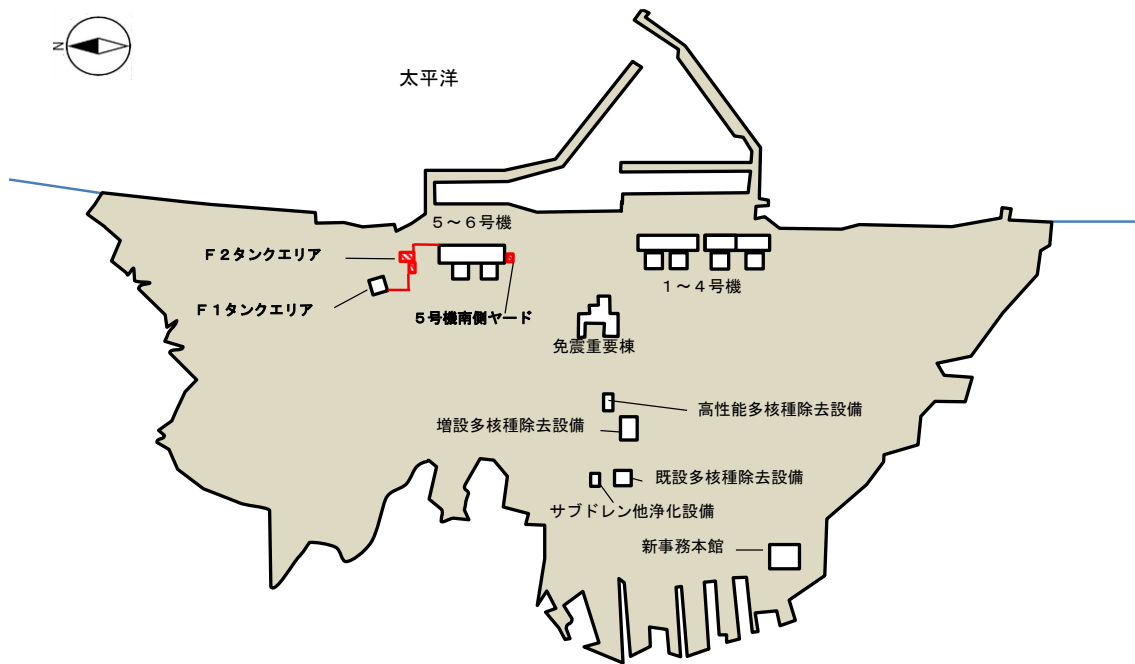
※1 F2タンクエリアフランジ型タンク：漏えいリスク等を踏まえ、令和6年4月に使用を停止した。現在、5・6号滞留水はF1タンクエリアにある溶接型タンクに貯留されている。

(2) 3号機起動変圧器解体作業の状況

1～3号機の起動変圧器^{※2}は、各号機のタービン建屋西側に設置されていたが、東日本大震災時の津波の影響で使用不能となり、このうち、3号機の起動変圧器は既に撤去されている。現在は、5号機南側ヤードにおいて解体作業が進められていることから、その状況を確認した。(前回確認(同様の作業である2号機主変圧器解体)：[令和5年2月14日](#))

- ・現場確認時に解体作業は行われておらず、変圧器はシート及びネットで覆われた状態で仮置きされていた。周囲は資機材の散逸もなく、整理整頓が行き届いていた。(写真3)
- ・解体エリアの周囲には、変圧器からの絶縁油漏えいに備えて仮堰が設置されていた。堰内を確認したところ、雨水による水たまりがあったものの、油膜は確認されなかった。(写真4)

※2 起動変圧器：発電所を起動させるために、発電所外から電圧を変えて電気を取り込む装置。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図

→F1タンクエリア



(写真1-1)
移送配管の敷設状況①



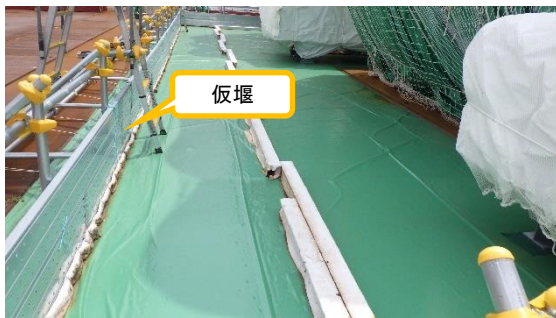
(写真1-2)
移送配管の敷設状況②



(写真2)
フランジ型タンク残置の状況
※特にフランジ部に錆が目立つ



(写真3)
起動変圧器の仮置き状況



(写真4)
仮堰の設置状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。